

保坂区政の「キャッチフレーズ政治」にもうだまされるな！

おおば 正明

世田谷
区議会議員



世田谷行革110番

区議報告

第72号 2026年3月

<https://ooba110ban.net>

〒157-0063 粕谷 3-35-3

(TEL3307-1179)

保坂区長 15 年の本質・原点はここにあった！

当選時

(2011年)

区長の
退職金
2,500万円を
廃止します！



2期目



受け取りました

政策より感情論

政治において「選挙公約の言葉」は最も重い責任を伴います。特に金銭に関わる公約は有権者の関心が高いため方針転換には「説明責任」が必要です。保坂区長の説明は右上の通りです。つまり退職金制度の批判としての公約だったのか、単なる世間しらずの感情論的な（ウケ狙い）公約だったのか、明らかです。

「やってみたら想像以上に激務だったから」という理由は、裏を返せば「やる前は仕事の内容を正確に把握していなかった」と自白しているようなものです。候補者として、自治体経営のコストや職責を定量的に把握せず、「高すぎるという感覚」という感情論だけで公約を掲げたのであれば、それは政策ではなく「人気取りのパフォーマンス」と批判されても仕方ありません。

●早くも保坂区政は 15 年を迎えました●では、保坂区政とは何だったのか●振り返ると、その出発点には「退職金廃止」という公約が反故にされた事実がありました●ここから、区政の迷走は始まったのではないのでしょうか。

区長の職は想像以上に激務で負担も極めて重いことを痛感し退職金を受け取ります。

【保坂区長本会議答弁より】



イメージ公約優先で失政

保坂区長の追い風となったのは、前区長時代の開発が完成期を迎え、あたかも自身の実績で街が変わったように区民には見えたことです。この「見かけの成果」が、新庁舎建設の先送りを覆い隠しました。

言葉（公約）は立派
しかし判断は先送り——
その体質は庁舎整備の遅れ大失態にも

保坂区長は「大型開発優先の区政を転換する」という公約を掲げていました。しかし、**大型開発を連想させる新庁舎建設は、結果として後回しにされました。**東日本大震災直後に誕生した区長でありながら、新庁舎建設の中核を担っていた「**庁舎計画担当部**」を廃止しました。2008 年当時の建設費の試算では約 240 億円できるということでした。保坂区長が新庁舎建設を認めたものの、議会とゴタゴタがあり現在は下の通りです。

当初契約 366 億円 → 最終 430 億円

1

2期目の 手のひら返し

ところが、2期目の当選をはたすと、やはり**退職金が欲しい**と言い出します。2期目の選挙公約には、「退職金廃止」は記載されていません。有権者からすれば「廃止を掲げて1期目当選した」という事実がある以上、この変化を「公約違反」と捉えるのは自然な反応だと言えます。もっとも2期目の公約に「退職金復活」と書けば許されたかもしれませんが。